

実証試験結果報告書の概要版（第3次案）

〔1〕 基本的考え方

1. 作成のねらい

- (1) 「環境技術実証モデル事業」および「山岳トイレし尿処理技術実証モデル事業」について広く一般の理解を深める
- (2) 「山岳トイレし尿処理技術」の設置主体となる地方公共団体、山小屋等に本事業の趣旨や実証試験結果を簡潔に理解してもらう
- (3) 実証試験結果報告書の本編について理解を求めること
- (4) 「山岳トイレし尿処理技術」設置・普及のための参考資料としての役割を担う

2. 編集方針

- (1) 「環境技術実証モデル事業」について簡潔に紹介する
- (2) 山岳トイレ技術分野について簡潔に紹介する
- (3) 山岳トイレし尿処理技術実証試験方法について簡潔に紹介する
- (4) 山岳トイレし尿処理技術実証試験結果について簡潔に紹介する
- (5) 「山岳トイレし尿処理技術」設置にあたっての検討材料を整理して紹介する

〔2〕 構成案

① 試験概要

1. 「環境技術実証モデル事業」とは
2. 山岳トイレ技術分野について
3. 山岳トイレし尿処理技術の各技術のあらまし
4. 山岳トイレし尿処理技術実証試験方法について

② 試験結果

1. 富山県での実証試験結果
2. 長野県での実証試験結果
3. 神奈川県での実証試験結果
4. 静岡県での実証試験結果
5. 山のECHOでの実証試験結果

2 試験結果

※各実証モデル事業の基本パターン

し尿処理方式	
し尿処理方式の分類	①生物処理 ②化学処理 ③土壌処理 ④乾燥・焼却処理 ⑤コンポスト処理 ⑥その他（ ）
実証申請者	
環境技術開発者	
実証機関	

1. 対象技術の概要

し尿処理フロー および技術概要 （し尿処理フロー に沿って、工程毎の 処理・役割を記入下 さい。）	
--	--

トイレし尿処理装置の写真①

トイレ外観写真
（トイレ周辺含む）

2. 実証試験の概要

試験期間		平成 年 月 ～ 平成 年 月 (ヶ月)					
越冬試験の有無							
トイレ名称							
所在自治体				設置主体			
所在山岳地（設置場所の標高）		山岳名： （標高： m）					
自然条件	気温	最高： °C、最低： °C、平均： °C					
	降水量（年間）	mm／年		最大積雪量		m	
インフラ 条件	搬出入手段						
	電力供給方法			給水方法			
利用条件	供用開始日	平成 年 月 日					
	使用期間	月～ 月		冬期閉鎖期間		月～ 月	
装置名称							
設置面積		W. mm × D. mm × H. mm (m ²)					
便器穴数		男（大 穴、小 穴）、女（ 穴） 共用（ 穴）					
処理能力	稼動条件						
	利用人数 （設計規模）		平 常 時： 人回／日				
			利用集中時： 人回／日				
	必要水量				消費電力量		kWh/月
	消費燃料量		燃料の種類： 、消費量：				
	適正稼動可能気温		°C～ °C				
	維持管理性						
	日常管理		人 分		専門管理		人 分
	発生物搬出量・頻度						
	ランニングコスト		約 円/年 （主な内容： ）				
	快適性						
	臭気（トイレ室内）						
	洗浄水色						
	操作性						

3．実証試験結果

3－1．稼働条件・状況

項目	実証結果
利用状況	利用集中設定時期： 月 日～ 月 日
	集中時： 最高 人／日、平均 人／日
	平常時： 最高 人／日、平均 人／日
消費水量	初期水量： 補充水量：
消費電力	kWh/月
気温	最高： °C、最低： °C、平均： °C

3－2．維持管理性能

項目	実証結果		
	1回あたりの作業量 (所要人員・時間)	実施頻度	作業性
日常管理	(人) (分)		
専門管理	(人) (分)		
開閉山対応	開山時 (人) (分) 閉山時 (人) (分)		
発生物の搬出 及び処理処分	(人) (分)	回	
トラブル対応	(人) (分)	回	
マニュアルの 信頼性			

3－3．室内環境

項目	実証結果
温度	最高： °C、最低： °C、平均： °C
湿度	最高： %、最低： %、平均： %
許容範囲	快適性
	操作性

3－4．処理性能

分類項目	試料採取場所	実証項目	実証申請者による 性能表示	実証結果			データ範囲	比較値 (標準値等)	考察
				分析結果 (平均値)					
				平常時（集中前）	集中時	平常時（集中後）			
循環水		pH					～		
		TOC					～		
		BOD					～		
		塩化物イオン					～		
		浮遊物質					～		
		大腸菌群					～		
		その他					～		
汚泥		pH					～		
		蒸発残留物					～		
		強熱減量					～		
		汚泥沈殿率					～		
		浮遊物質					～		
		その他					～		
オガクズ・ 杉チップ等		蒸発残留物 及び含水率					～		
		強熱減量					～		
		pH					～		
		TOC					～		
		電気伝導率					～		
		単位体積重量					～		
		大腸菌群					～		
その他					～				
焼却灰・ 炭化物等		蒸発残留物					～		
		強熱減量					～		
		pH					～		
		TOC					～		
		電気伝導率					～		
		その他					～		
排ガス等		アンモニア					～		
		硫化水素					～		
		その他					～		
単位装置の稼動状況		考察							

利用者数グラフ ※ 実証期間中の利用者数をグラフ化する。 ※ 横軸に時間軸、縦軸に利用者数とする。 ※ 利用者数は月毎の総利用者数を棒グラフで示すと同時に、累積数を折れ線グラフで同一グラフ上に示す。 ※ 利用集中時と平常時が区別できるようにする。 ※ また、汲み取りやトラブル等が生じた場合は、その時点が分かるようにする。
--

分析項目グラフ ※ 前頁で記載した処理性能分類項目ごとにグラフを作成する。ただし、分類項目ごとに特筆すべき分析項目のみをピックアップしてグラフ化する。ただし、関連性が高い項目がある場合は同一グラフに併記する。 ※ 横軸に時間軸、縦軸に分析数値とする。
--

4. まとめ ※以上の内容についての記載は必須とする (1)設置・管理者からの実証技術の運転・管理に関するコメント・・・トラブルや操作性、有料制など (2)利用者のマナー・ルール状況、使用感に関するコメント (3)調査の試験結果に関するコメント・・・基準値、異常値など数値データに関するコメントを含む
--